

道場から大岩岳・丸山湿原

第 201 回 武庫川エコハイク
2024.3.9 エコグループ・武庫川

武庫川 全長 65km、流域面積 500km²。丹波篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の 7 市 1 町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える 2 級河川である。「武庫川」の名は下流の右岸が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門(むこみなと)」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。本川の源流は丹波篠山市にある。丹波篠山市から三田盆地までは緩やかな傾斜であるが、道場を過ぎると武庫川渓谷の急流となる。

武庫川渓谷 神戸市北区道場地区から西宮市生瀬地区までの全長 14 kmの武庫川渓谷のうち特に武田尾から生瀬までの7kmを**武田尾渓谷**と呼び武庫川に沿って旧国鉄福知山線廃線跡があり四季折々の景観の美しさ生物の多様性から都心に近いハイキングコースとして市民に親しまれている。ほかの河川と異なり上流にあるはずの渓谷が下流沖積平野の直上にある。

JR道場駅 明治32年(1899)阪鶴鉄道(現JR福知山線)開通とともに道場駅が設置され、当初は木材、薪炭の輸送が多かったが、大正3年(1914)千苺水源池の工事が始まり、工事用資材の搬入に貢献した。当時は貨物引込み線もある駅だった。千苺水源地、鎌倉峡、百丈岩ハイキングの玄関口。

富士チタン工業(株)神戸工場 石原産業(株)の100%子会社。神戸工場では酸化チタンの製造をしている。同社の酸化チタンは繊維用艶消し剤(シェア60%)、カード用PETフィルム白色顔料に使われている。(同社ホームページより)

神戸層群 道場駅から下流の武庫川本川、羽束川の下流では神戸層群の河床が見られる。500万年前この辺りは古神戸湖の湖底に当たり、細かい粘土層(シルト)が堆積していた。

不動岩 ロッククライミングのメッカ。いくつものエリアで登れるクラシックな岩場、道場駅から近い場所にあり、アプローチが良いので人気、内容は玄人向けの印象。岩質凝灰岩、傾斜90度、ルート数70本～、宿泊・キャンプ地などなし、トイレなし。

近畿自然歩道(道場駅～千苺湖畔西岸～宝塚市西谷支所) 山陽路ルートの一つ。千苺ダム南部で斜面崩壊のため現在通行止め。

神戸市千苺浄水場 神戸市北区の開発や住宅団地の建設等による人口の増加に合わせて、千苺水源池を水源として、昭和42年(1967)3月に創設された北神水道の浄水場。面積20,000m²、一日当たり浄水能力108,000m³、太陽光発電(95kw)、水力発電(180kw)にも注力して浄水場使用電力の8%を賄い環境にも配慮している。

東山橋 羽束川最下流の橋。武庫川合流点が望める。

羽束川(はつかがわ) 武庫川最大の支流で、源流は大阪府能勢町天王の深山(みやま標高791m)。途中丹波篠山市籠坊温泉、後川(しつかわ)、三田市高平を経て宝塚市波豆で波豆川を合流して千苺水源池に注ぐ。武庫川には武庫川峡谷の直上流の神戸市道場で合流する。流域面積95,000km²(武庫川流域の19%)、長さ32km、高低差360mで武庫川本流よりも勾配が大きい。「羽束」は「波都加之(はづかし)」から出、「泥部(はづかしべ、石の職人)」の住む所という説がある。「波豆」の語源も同意と考えられる。この辺り北摂最高の石造物の宝庫であることからうなずける。

神戸市千苺水源池 明治の初め、神戸市ではコレラが毎年のように流行し、この対策の為水道の必要性が増大し、明治30年(1887)水道工事が開始され、30年代に布引貯水池、奥平野浄水場、烏原貯水池が完成した。さらに大正8年(1919)千苺貯水池が完成した。池の面積112万m²(満水時)、貯水量1160万m³、堰堤高さ42m、同長さ106m、池の周囲23km。現在神戸水道の13%を担っている。水は主に千苺浄水場へ送られるほか、導水路を通して西宮市にある神戸市の上ヶ原浄水場へ送られる。**千苺の「苺(かり)」**は「束(そく)」のことで、刈り取った稲の束数を表している。水源池で水没したところには「千苺」のほか「八百苺」の地名が見える。

千苺堰堤 高さ42m、長さ106m 重量式粗石モルタル積。国指定文化財、大正中期時点で最も高い水道用粗石コンクリートダム(Aランク)。近代化産業遺産にも指定されている。

千苺橋 RC開腹アーチ(Cランク)文化財。

大岩岳 千苺水源池の東側に位置する。標高384m、二等三角点。北摂の山並みの展望よし。

東大岩岳 大岩岳の東にある。大岩岳と千苺貯水池及び丸山などの展望が良い。

馬の背 東大岩岳を北に下ると馬の背がある。ツメレンゲの群生が見られる。

丸山湿原群 宝塚市境野にある丸山(標高328.4m)の西側にある約2800m²に及ぶ湿原群の総称で付近には大小複数の湿原が点在している。最も面積の大きな湿原が通称「丸山第1湿原」と呼ぶ。湿原の面積、出現植物数、植物群落タイプ等から見ても兵庫県一の湧水湿原である。丸山湿原付近一帯は、西谷地域でも特に荒地(ズリ)が多い。湿原集水域の山は、古くから地元集落の玉瀬・境野・大原野の共有財産(持山)として、また一部は、個人の山として管理・利用されてきた。これらの山は自家用の柴・マツタケ採集で利用され、特に良いマツタケ山であった。昭和64年(1989)宝塚新都市開発構想を県が策定。平成17年(2005)兵庫県が先行取得地里山林整備事業で遊歩道など工事開始。平成18年(2006)「丸山湿原群保全の会」が発足、保全活動始まる。平成20年(2008)地域住民の主導、行政の支援により、丸山湿原の保全、活用を推進する体制として「丸山湿原エコミュージアム推進協議会」が発足。兵庫県レットデータブックAランク。平成26年(2014)宝塚市天然記念物に指定され、平成27年(2015)兵庫県天然記念物に指定されている。兵庫県北摂里山博物館の一つ。(案内板より)

丸山湿原の成立ち 丸山湿原には大小5つの湿原があります。周辺の地質は中生代に堆積した有馬層群で、凝結凝灰岩と呼ばれる凝灰岩が広く分布している。当地の凝灰岩は風化しやすく、丸山湿原の各所には風化の進んだバッドランド地形のはげ山を多くみる。風化した土は非常に細かい粘土に近いシルトで、雨が降ると斜面下方へと流れだして谷底を埋め、傾斜が緩やかでシルトからなる谷底には、水が停滞して湿潤な立地が形成されることになる。シルトの層の厚さは1mになる。

丸山湿原の植物群落 湿原中央部の表土が見える湿潤な立地には、草丈の低いイヌノハナヒゲ群集がみられ、サギソウ、トキソウ、ミカキグサ、ミカツキグサ、モウセンゴケなどが群落の構成種となっている。一方、土砂の堆積した過湿な立地にはヌマガヤ群落が成立し、イヌノハナヒゲ群集の周辺部や湿原内部にパッチ上に分布し、カキランやミズギボウシ、サワヒヨドリなどの背丈の高い花が見られる。また、ヌマガヤ群落のさらに外側、湿原の周辺部には、オオミズゴケのほかアカマツやイソノキ、アリマコスズなどの木本類を多く含むイヌツゲ群落がみられる。**湿原の生息動物** 日本一小さいハッチョウトンボ、ヒメタイコウチなど湿原にだけ生息する生き物が見られる。(案内板より)

丸山三角点 281.4mの三角点。**風吹岩** 山塊(さんかい)が露出し異様な形に岩が散在する。